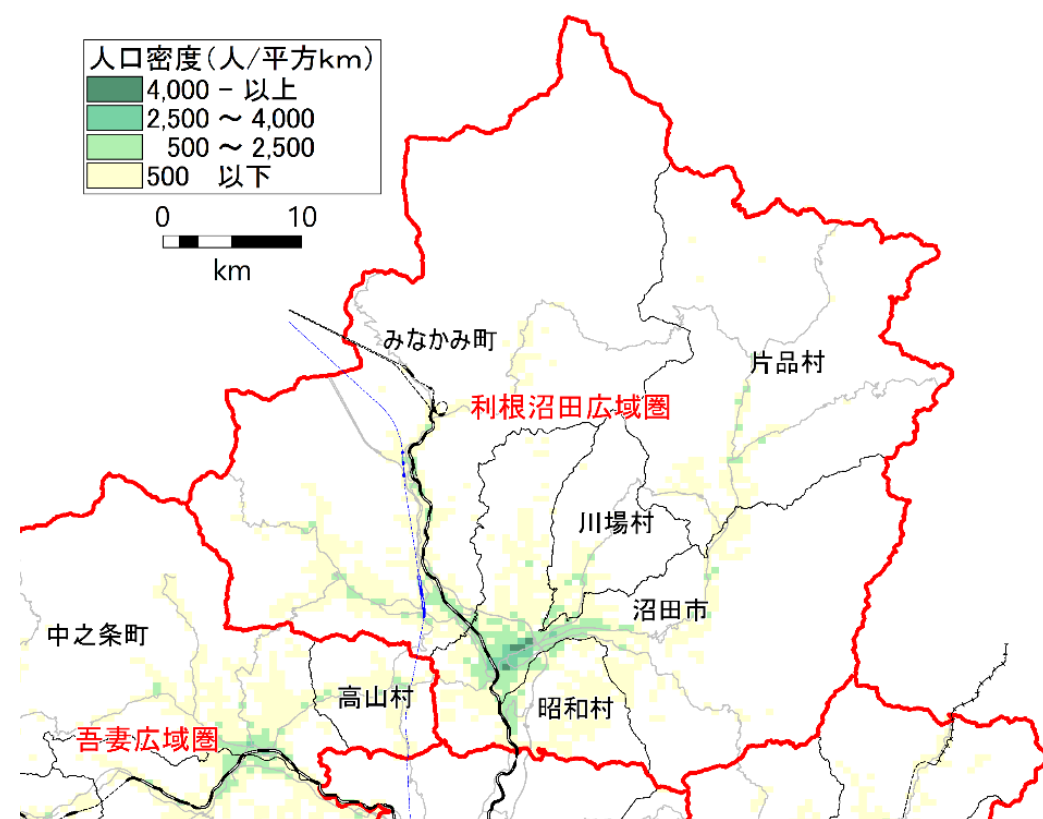


■地域公共交通の現況等

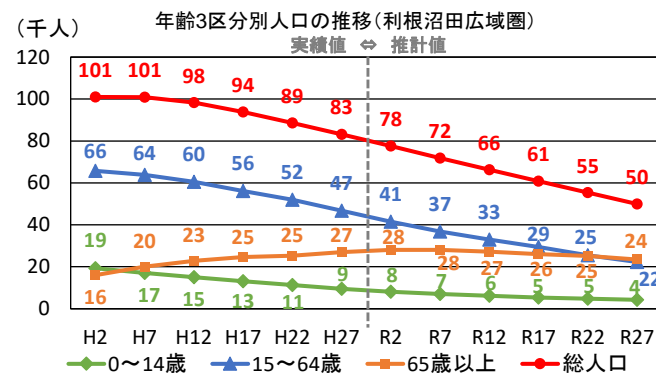
- 当圏域は今後急激な人口減と高齢化が進む。令和27年には圏域人口が5万人、高齢化率が約5割となると予測されている。
- 鉄道はＪＲ上越新幹線とＪＲ上越線(渋川～沼田～越後湯沢)が通っている。民間路線バスは5路線が運行(関越交通)され、行政運営の路線バスが15路線運行されている。鉄道と路線バスでカバーし、低人口密度の居住地が谷筋の道路沿線のためデマンド交通は運行されていない。
- 当広域圏の中心は沼田市である。人動きは各町村から沼田市への流動が多い。鉄道で沼田市、昭和村、みなかみ町が連絡されている。昭和村、川場村、片品村及びみなかみ町と沼田市を連絡するバス路線が運行している。沼田市街地では、バスが16路線運行され、大半のバス路線が市街地の拠点と沼田駅を循環し郊外部及び周辺町村と連絡する経路となっている。
- 昭和村はバスが3路線運行され、いずれも沼田市と連絡している。
- 川場村はバスが沼田市と連絡する1路線運行している。
- 片品村はバスが3路線運行され、うち1路線が沼田市と連絡している。
- みなかみ町はバスが3路線運行され、うち1路線が沼田市と連絡している。

■人口密度（平成27年国勢調査）



- これまでの公共交通補助政策を前提とすると、人口密度を指標とした場合に適用する交通手段は、一般路線バスが2,500人/km²以上、コミュニティバスが500人/km²以上2,500人/km²未満、小型車両や区域運行が500人/km²未満程度と言われている。沼田市の市街地部では人口密度が500人/km²以上であるが、それ以外の地域では人口密度が500人/km²以下で、このままでは公共交通の維持が難しい状態である。人口が少ないものの、郊外及び中山間地の道路沿線に居住している。

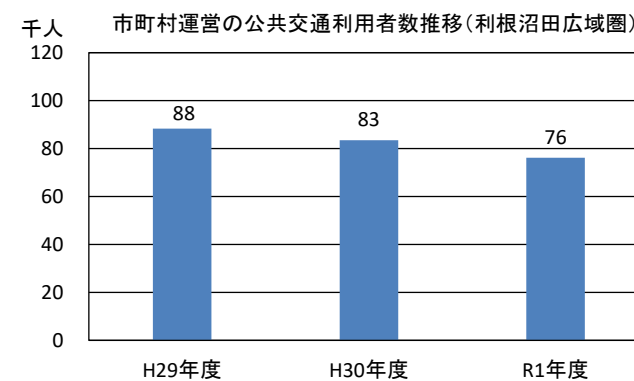
■人口の推移



データ：国立社会保障・人口問題研究所

- 今後総人口は減少し令和27年には現状の64%の約5万人、高齢者人口も微減となるが、高齢化率36%が現状の約%から令和27年には約48%になると予測されている。

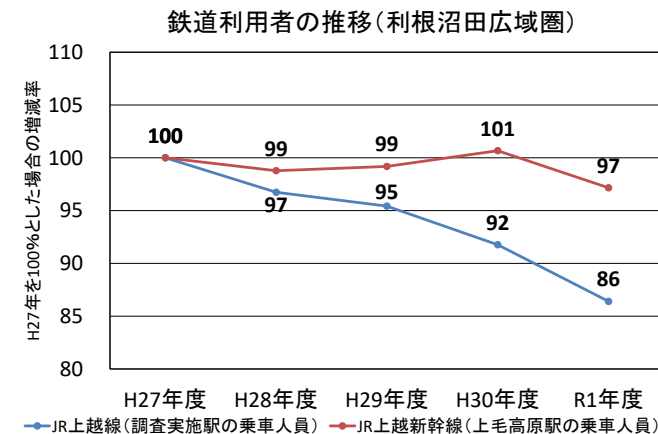
■市町村運営の公共交通（バス、乗合タクシー等）利用者の推移



※川場村村営バスを除く。

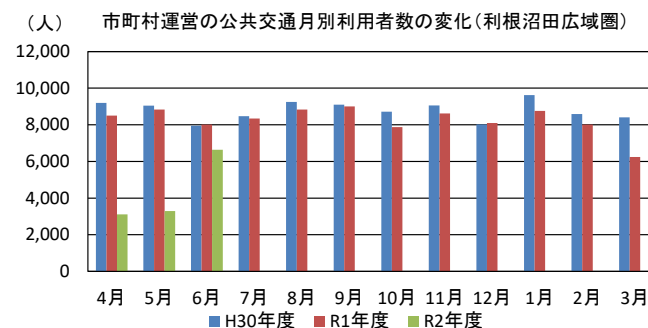
- 市町村運営の公共交通（バス、乗合タクシー等）の利用者数は、H29年度からR1年度まで減少し、R1年度はH29年度の88%となっている。

■鉄道利用者の推移



- 鉄道利用者の推移は、JR上越新幹線は微減、JR上越線はH27年からR1年の4年間で14%の減少傾向となっている。

■市町村運営の公共交通（バス、乗合タクシー等）の新型コロナウイルスによる影響



- 新型コロナウイルスによる市町村運営の公共交通（バス、乗合タクシー等）の利用者への影響は、R1年度の3月からみられ、3月は前年度比約74%、R2年度4月、5月には前年度比約37%と急激に減少し、6月になり前年度比約83%に回復した。

